

点字ブロック



断

点字ブロックが地下鉄の駅入り口と歩道の間で断絶しているため、通り過ぎてしまうと話す樋渡敏也さん
＝東京都豊島区で

絶

視覚障害者の歩行を助ける点字ブロックの「断絶」を直して。東京都の豊島区盲人福祉協会が7月、地下鉄出入り口や駅と公道の間のブロックが途切れているとして、区に改善を求める要望書を出した。こうした不適切な設置は各地にあり、目が不自由な人の移動を妨げている。
(中村真暁)

「これでは出入り口の前を通り過ぎてしまう」。視覚障害がある樋渡敏也さん(67)は7月上旬、池袋西口へ続く区道「アゼリア通り」を協会の調査で訪れ、つぶやいた。

そこには地下道出入り口がある。昨年11月に供用開始されたばかりで新しい。だがアゼリア通りにずっと続いているブロックから、地下道出入り口のブロックまで2段ほど離れている。区道は豊島区、出入り口は東京メトロ、と管理者が異なっているためか、つながっていない。

アゼリア通り沿いは進行方向を

に 警 鐘

「視覚障害者 迷う原因に」豊島区に改善要望

示す線状の「誘導ブロック」が続くため、その上を歩けば出入り口の存在に気づきやすい。実際に、樋渡さんも出入り口を通り過ぎてしまった。

協会によると、ブロックの断絶は各地に散在する。要望では、東武東上線下板橋駅(豊島区)の駅構内と歩道をつなぐブロックも3・5段ほど離れており、改善を求めた。駅から歩道へ出る際にブロックを探してさまよい、そばの踏切に迷い込む危険があるという。

市原寛一会長(58)は、「ブロック同士の距離が短いからと、話を矮小化しないでほしい。ブロック1枚分の隙間でも、迷うきっかけになる。でも視覚障害者が断絶に気づくことは難しく、声を上げにくい。管理者同士で協議してつなげてほしい」と訴えた。

国土交通省のガイドラインは、視覚障害者がよく利用する施設などは各所に散在する。要望では、東武東上線下板橋駅(豊島区)の駅構内と歩道をつなぐブロックも3・5段ほど離れており、改善を求めた。駅から歩道へ出る際にブロックを探してさまよい、そばの踏切に迷い込む危険があるという。

相次ぐ不適切設置「統一の工夫を」

東京都内を歩くと、点字ブロックの断絶をしばしば目にする。例えば新宿区の新宿駅と新宿三丁目駅周辺。豊島区盲人福祉協会の市原寛一会長から「まるで誘導できていない」と聞いたので訪ねてみた。

地下道への出入り口はたくさんあるが、複数の場所ですべて歩道のブロックと数段ずつ離れていた。視覚障害者にとって階段より利用しやすいエレベーターから続くブロックさえ、続いている。地下道では断絶とは別に、ブロック上に店の看板が三つ並んだ場所もあった。公道を管理する新宿区の担当者は「道路の更新時期に順次改修していく」と説明した。

国内外のブロックを調査してきたアール医療専門職



歩道の線状の点字ブロック(手前)は、地下道へ続く点状の点字ブロック(奥)につながらない＝東京都新宿区で

複数の消防

道頓堀ビル 訓練

大阪府中央区の繁華街・道頓堀で消防活動をしていた消防隊員2人が死亡したビル火災で、市消防局が過去に現場となったビルに、避難訓練の未実施など複数の消防法令違反を指摘していたことが19日、同局への取材で分かった。大阪府警は同日、火元とみられるビルを現場検証。市消防局は21日にも事故調査委員会を

るといい」と説明する。ただし、「問題のある設置はほかにもある」とも。

記者が新宿区内を歩いた際も、進行方向を示す「誘導ブロック」となるべき場所が注意を促す「警告ブロック」になっていた。マンホールや柱などで途切れたりする場所があった。

徳田教授は国土交通省のガイドラインにない形状の場所では、自治体などの独自の判断で設置されることも多く、当事者の混乱を招くと指摘。「国は設置の仕方の方針をベースと相談窓口をつくるなどして、統一する工夫が必要。また大切なのは、視覚障害者が安全に歩けること。ハード面だけでなく、声かけなどの人的サポートも必要」と強調した。